

第5章

「伝えよう、育てよう『信州の食』」 (仮称) 県民運動の展開

信州の食及びそれに関係している自然、産業（技）、文化、健康、歴史・伝統、活動、考え方を総称した言葉を設定し、それを長野県の食育推進の「合言葉」として用いて、県民及び県外者に普及・定着していく取組を進めます。

ねらい

- 県民が信州の良さを食の観点から考え、それを自らの生活の中に取り入れる機運が醸成される。
- 県外者が信州の良さを食の観点から具体的にイメージでき、長野県に対する関心を引き起こすことができる。

合言葉の設定

(1) 「合言葉」が表すものとして想定される内容

- ① 信州の自然に育まれた豊かな「農産物・食材」
- ② 信州の風土から生まれた「伝統食（郷土食や行事食など）」
- ③ 信州の健康長寿を支える「食生活」
- ④ 信州の人々が互いに支え合う「食のボランティア」
- ⑤ 信州の技から生まれた「食品加工」
- ⑥ 信州の歴史に根づく「食文化」
- ⑦ 信州の子どもを育てる「食習慣」
- ⑧ 信州の環境を守る「もったいないのこころ」
- ⑨ 信州の恵みに感謝する「いただきます・ごちそうさま」

- 「日本食（和食）」という言葉に明確な定義や基準はないが、それを聞くとある程度のイメージが湧いてくる、最近では海外でも日本食（和食）ブームが起きている。それと同じように「合言葉」を聞いただけで信州の食に関するいろいろなイメージが湧いてくるような言葉を設定する。
- 「合言葉」は、特定の料理や食材を指すのではなく、国内外において長野県の特徴（特長）となっている有形、無形のもの全体を指す。
- また、基準や範囲を決めるのではなく、「信州の食を良くしていこう」という趣旨に基づくものであれば、基本的には「合言葉」に入れることにする。

(2)「合言葉」の決定

- 信州の食を育む県民会議及び地域連絡会議、県民大会、地域フォーラム等の機会を活用し、「合言葉」に合う言葉がどんなものか、どんな内容が含まれるか意見交換を行い、食育関係者の総意となる「合言葉」を決定する。
- これまでの信州の食をそのまま伝えるのではなく、現在の科学的知見や生活状況等を踏まえたものに進化させる必要があるため、「伝えよう、育てよう」という言い方にする。
- なお、県では食に関する言葉をいくつか設けているので、「合言葉」をこれらの言葉との関係についてわかりやすく整理する必要がある。

合言葉の使い方

- 長野県内で食育の推進に関しては、「合言葉」を使用し、食育活動を実施する。
- 「信州の食を良くしていこう」という趣旨に基づくものであれば、基本的には「合言葉」を使って良いことにする。

